

## 2016 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	安野智子		
NAME			

## 1. 研究課題

（和文）経済的格差がもたらす世論の断絶

（英文）Economic Inequality and Public Opinion

## 2. 研究期間

1年間

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

【研究の背景と目的】本研究の目的は、近年の所得格差の拡大が民主主義的価値観と信頼にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることにある。申請者はこれまで、政治知識や争点への関与によって、世論が重層的な構造をなしていることを検証してきた。また、安野（2015、『選挙研究』31-1）では、所得ではなく資産（株・債権、および住宅）の所有が、投票参加の確率を高めることを明らかにした。これらを踏まえ、本研究では、個人の経済状況が、一般的信頼や民主主義的価値観、および政治的議論などに及ぼす影響を検討する。

【研究計画】（1）世界価値観調査を中心とする既存の社会調査データの二次分析、および（2）ウェブモニタ調査の実施とデータ分析による。ウェブモニタ調査では、近年社会問題となっているウェブ上の「炎上」をテーマとして、他者への信頼および社会観と、経済状況をはじめとする社会的属性の関係を検討した。

【研究の成果】（1）世界価値観調査の分析により、世帯年収が高いほど民主主義的価値観（反権威主義）を支持するという結果が得られた。その他の知見を含む結果については、分担執筆（池田謙一編）の1章として近刊の予定である。（2）ウェブモニタ調査のデータは現在分析中であり、2017年度中に投稿を予定している。

（英文）

The aim of this research project is to investigate whether economic inequality affects the democratic values and trust, using the World Values Survey data and the web-based original survey. The findings are as follows: (1) supports for democratic values are stronger among the richer respondents, and (2) the respondents with higher income are concerned about the public good and tend to support the draconian principle.